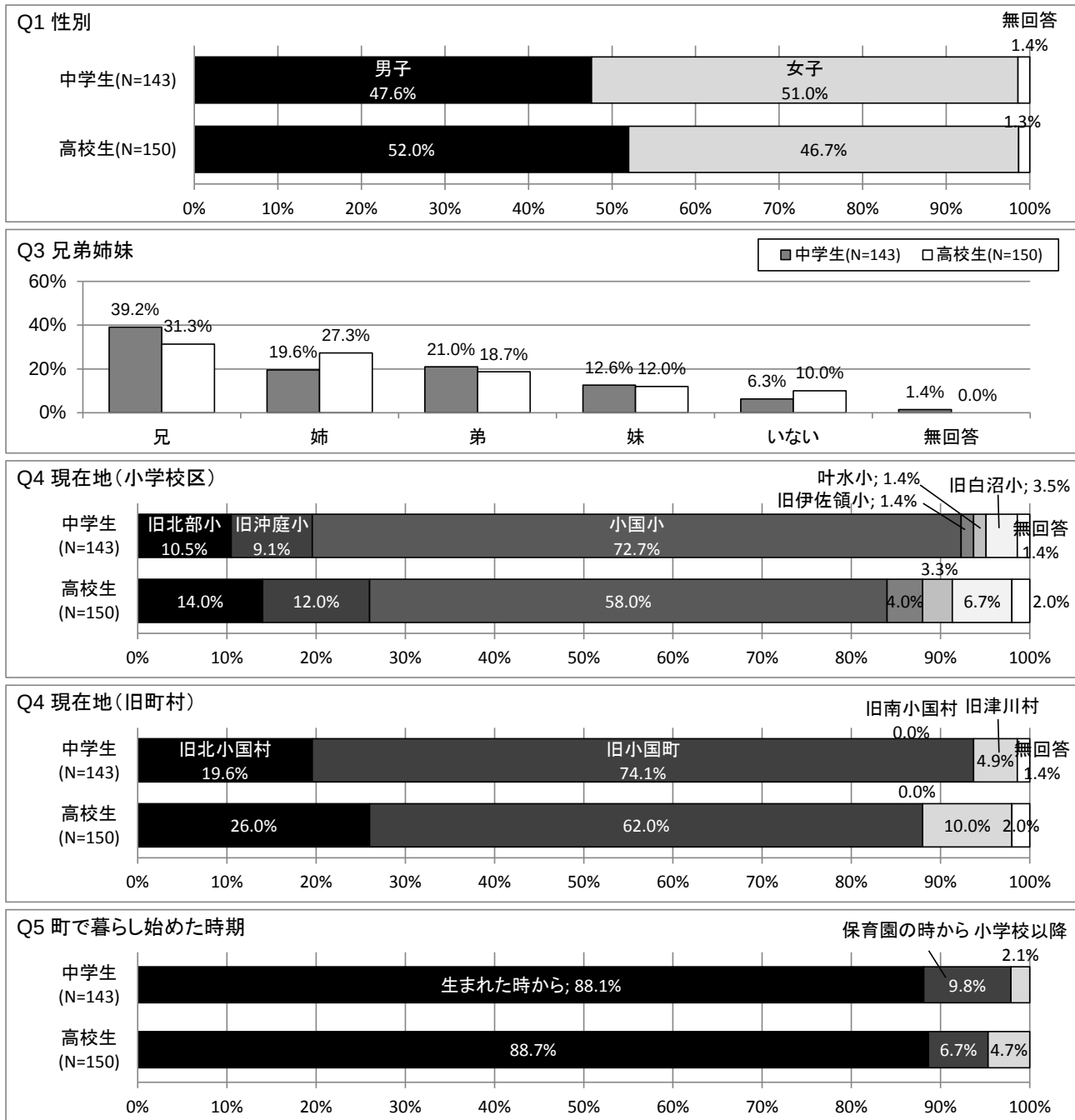


2-2. 中学生・高校生アンケートの結果

(1) 回答者属性

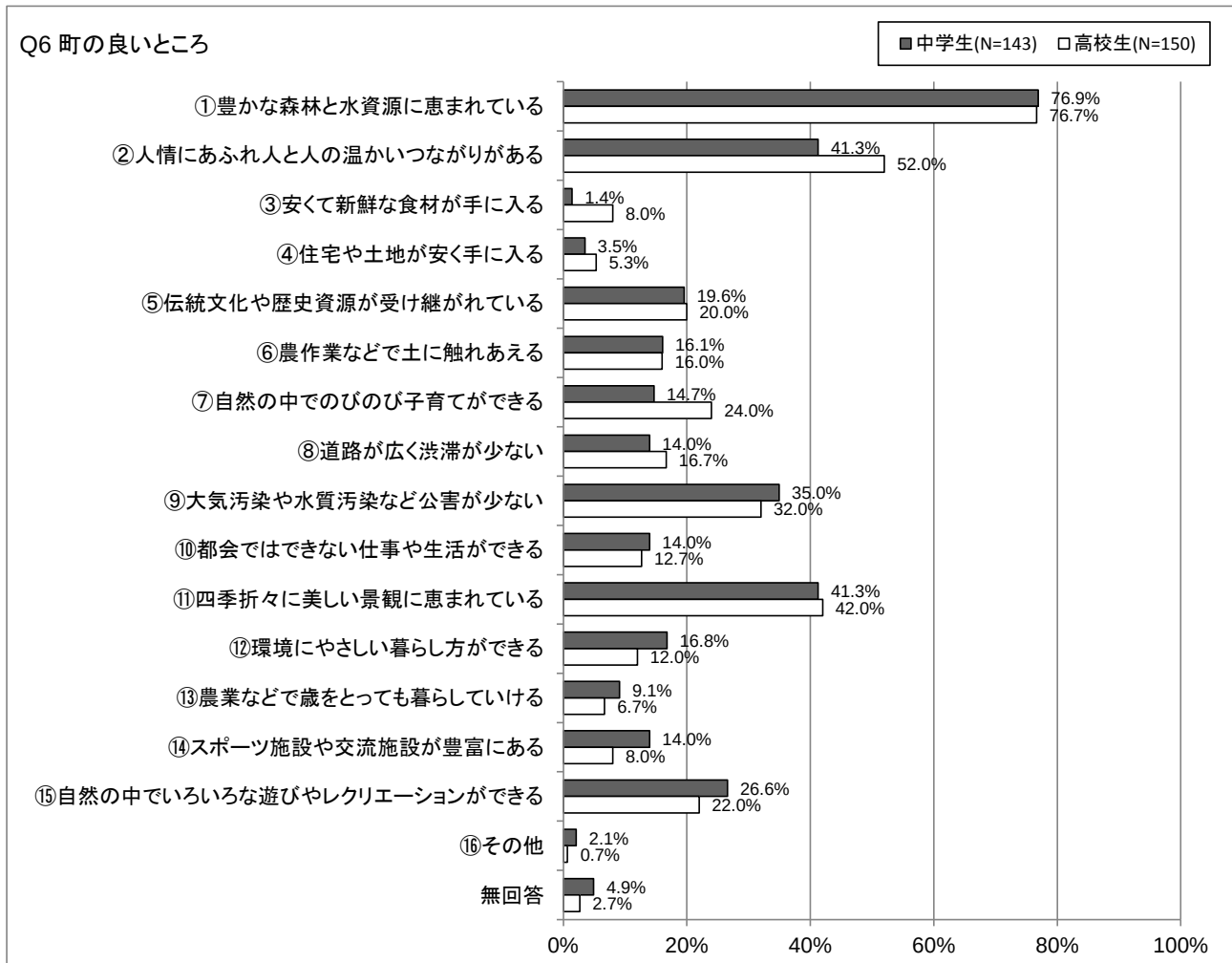
- 回答した中学生・高校生それぞれで性別をみると、中学生は女子の方が、高校生は男子の方がやや多くなっている。
- 回答した中学生・高校生の大部分は小国小学校区に住んでいる。
- 小国町で暮らし始めた時期についてみると、中学生・高校生ともに「生まれた時から」が9割近くを占めている。



(2) 小国町の魅力・イメージ

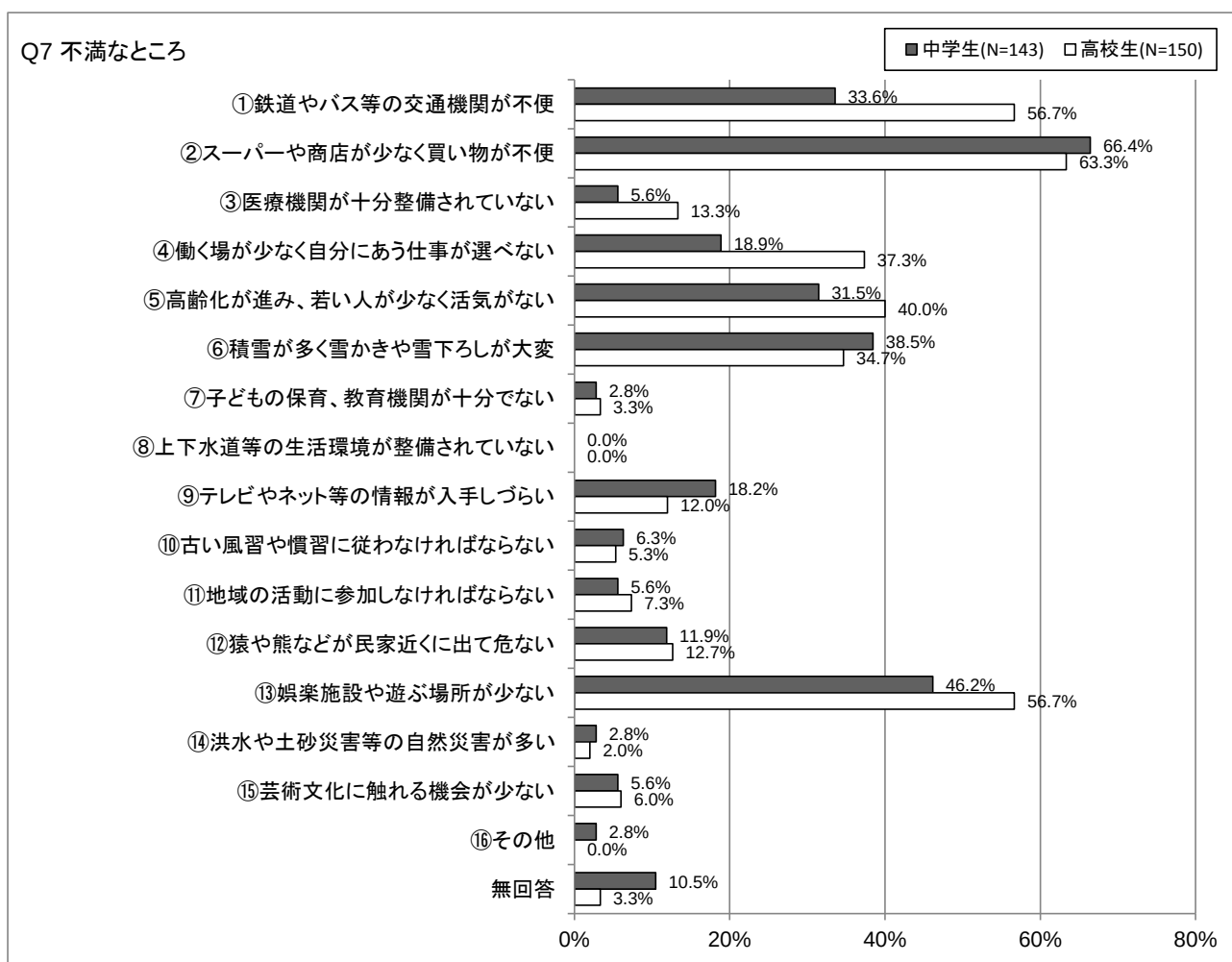
Q6 あなたにとって、小国町の良いところは何ですか。(〇は5つまで)

- 町の良いところとしては、中学生・高校生とも「豊かな森林と水資源に恵まれている」が8割近くと突出して高い割合となっている。これに次いで、「人情にあふれ人と人の温かいつながりがある」が第2位に、「四季折々に美しい景観に恵まれている」が第3位に挙げられている。



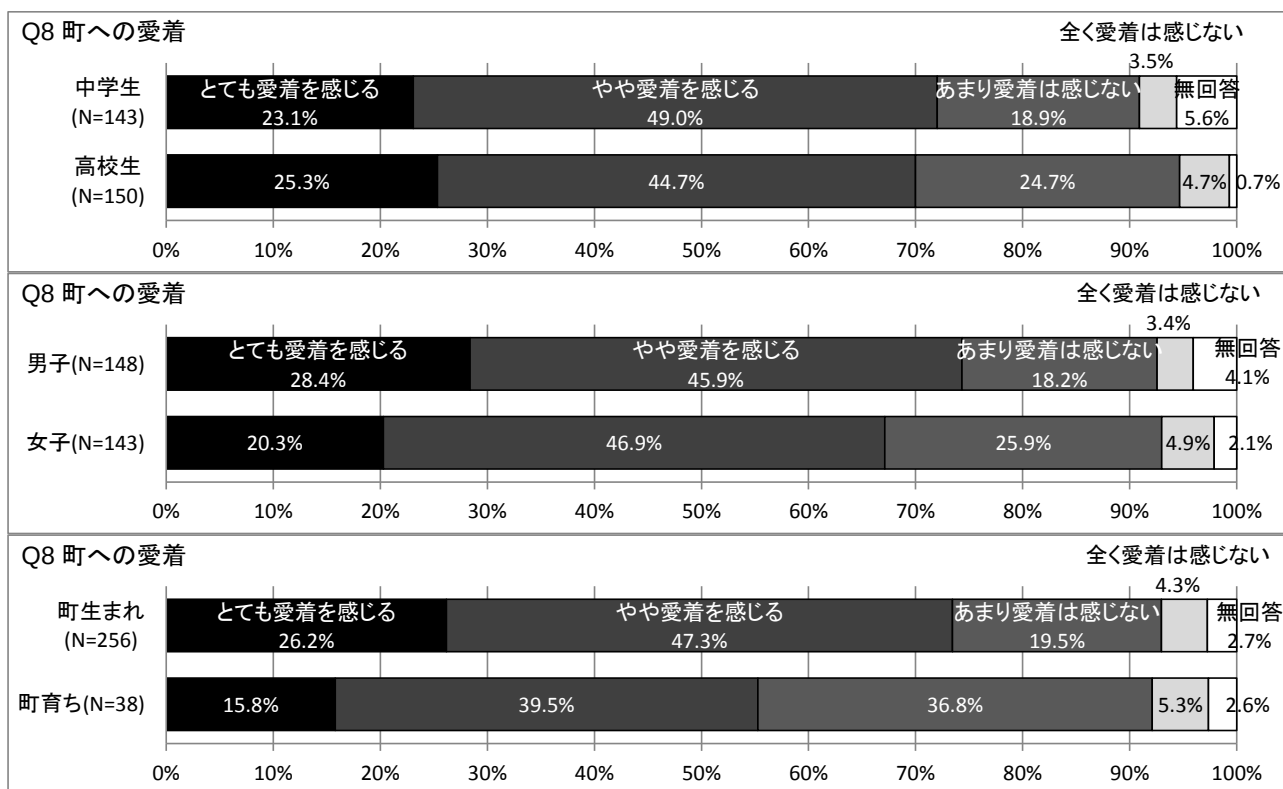
Q7 小国町に住んでいて、あなたが不満と覚じることは何ですか。(○は5つまで)

- 町で暮らしていて不満と覚じることとしては、中学生・高校生とも「スーパーや商店が少なく買い物が不便」な点が6割以上と最も多くから挙げられている。
- 高校生ではこれ以外にも不満と覚じることが多く、「鉄道やバス等の交通機関が不便」や「娯楽施設や遊ぶ場所が少ない」も半数以上が不満としている。
- また、「鉄道やバス等の交通機関が不便」な点や、「働く場が少なく自分にあう仕事を選べない」点などは、進学・就職という進路選択に直面する高校生の方が中学生よりもより強く不満を感じており、卒業後も町に住み続けながら進学・就職することを考える際のネックとなっていることが示唆される。



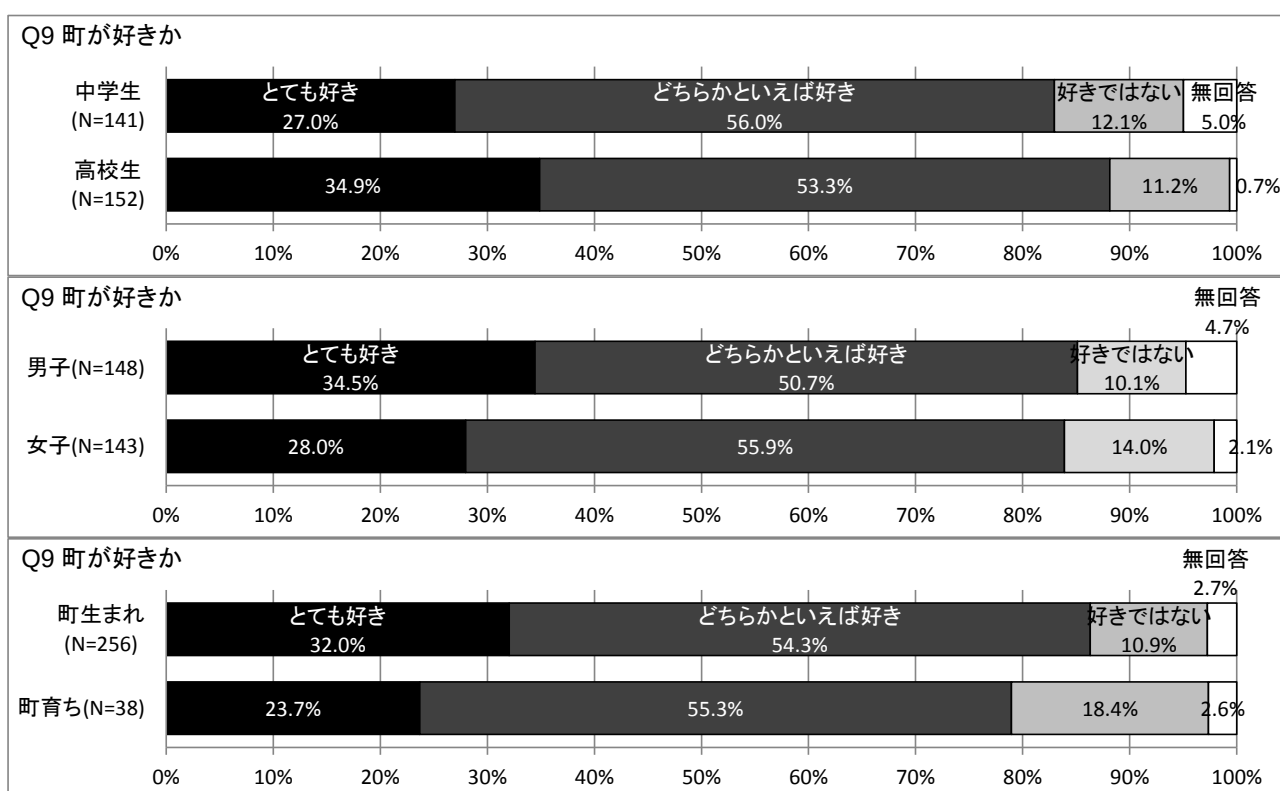
Q8 あなたは小国町に愛着を感じますか。(〇は1つ)

- 中学生・高校生とも、約4分の1が小国町に「とても愛着を感じる」としており、「やや愛着を感じる」と合わせると、7割以上の中高生が町に愛着があると回答している。
- 性別で比較すると、男子の方が女子よりも町に愛着を感じている。
- 町への愛着を町で暮らし始めた時期とのクロスで見ると、町生まれ（生まれた時から町で居住）の中高生は「とても愛着を感じる」が26.2%、「やや愛着を感じる」が47.3%と、7割以上が愛着を感じるとしているのに対して、町育ち（保育園以降から町で居住）の中高生では「とても愛着を感じる」は15.8%であり、「あまり愛着は感じない」が4割近くとなっている。



Q9 あなたは、小国町が好きですか。(〇は1つ)

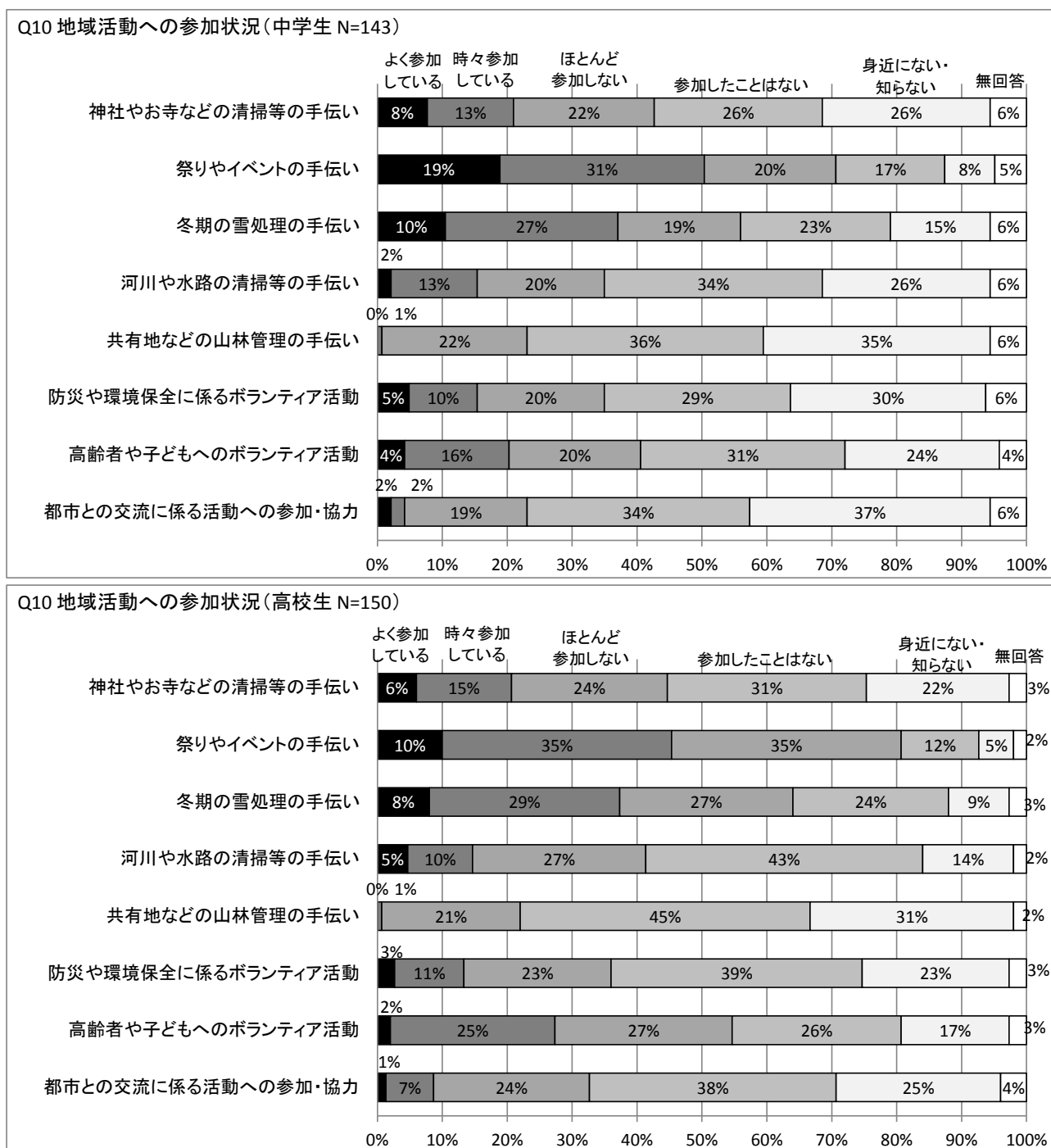
- 町が好きかどうかについて聞いたところ、中学生では 28.0%が、高校生では 34.7%が「とても好き」と回答しており、「どちらかといえば好き」と合わせると、8割以上の中高生が町を好きと回答している。
- また性別で比較すると、町が好き（とても好き＋どちらかといえば好き）と回答した割合は男子の方が女子よりも高くなっている。
- 町で暮らし始めた時期とのクロスでみると、町生まれ（生まれた時から町で居住）の中高生は、「とても好き」が 32.0%、「どちらかといえば好き」が 54.3%と、8割以上が町を好きと回答しているのに対し、町育ち（保育園以降から町で居住）の中高生では「好きではない」という割合が2割近くみられる。



(3) 地域活動等への参加状況

Q10 あなたは、次の地域活動に参加していますか。(○はそれぞれ1つ)

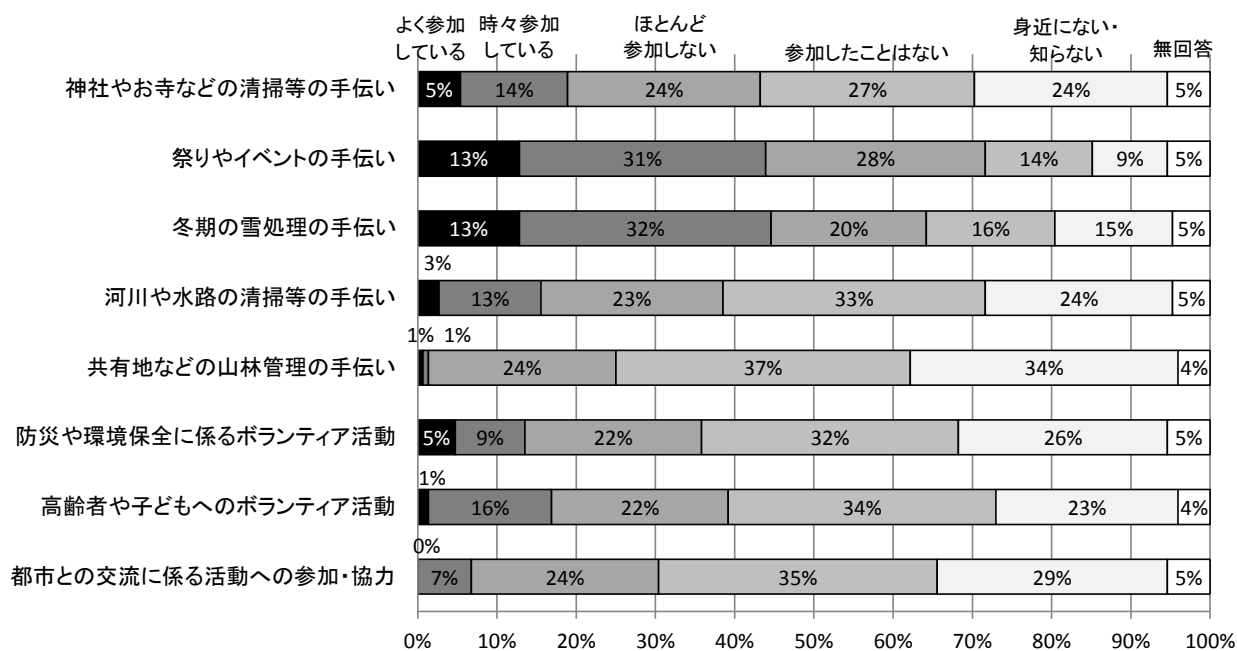
- 地域活動への参加状況をみると、中学生・高校生とも約半数が「祭りやイベントの手伝い」に参加している（「よく参加している」＋「時々参加している」）と回答している。
- これに次いで「冬期の雪処理の手伝い」の参加割合が比較的高く、中学生・高校生とも4割近くが参加している。



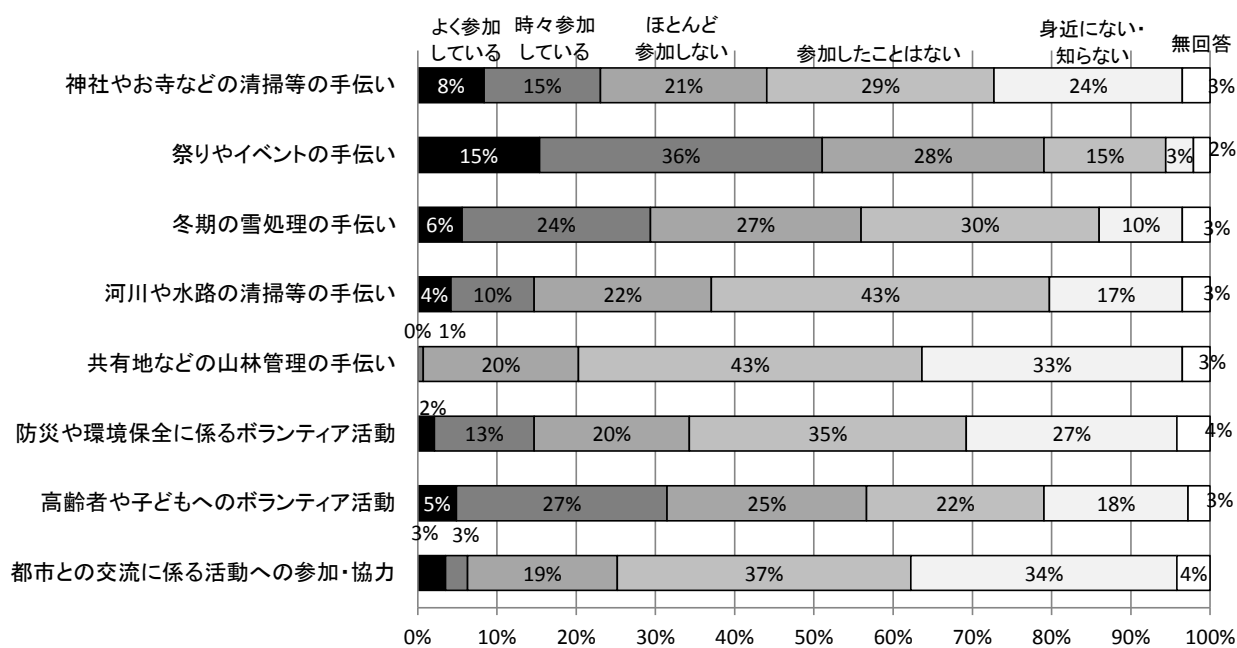
Q10 あなたは、次の地域活動に参加していますか。(〇はそれぞれ1つ)

- 地域活動への参加状況について、男子と女子とで比較すると、「祭りやイベントの手伝い」については男子よりも女子の方が参加している（「よく参加している」＋「時々参加している」）割合が高く、女子の半数以上が参加していると回答している。
- これに対し、「冬期の雪処理の手伝い」については、男子の方が女子よりも参加割合が高い。

Q10 地域活動への参加状況(男子 N=148)

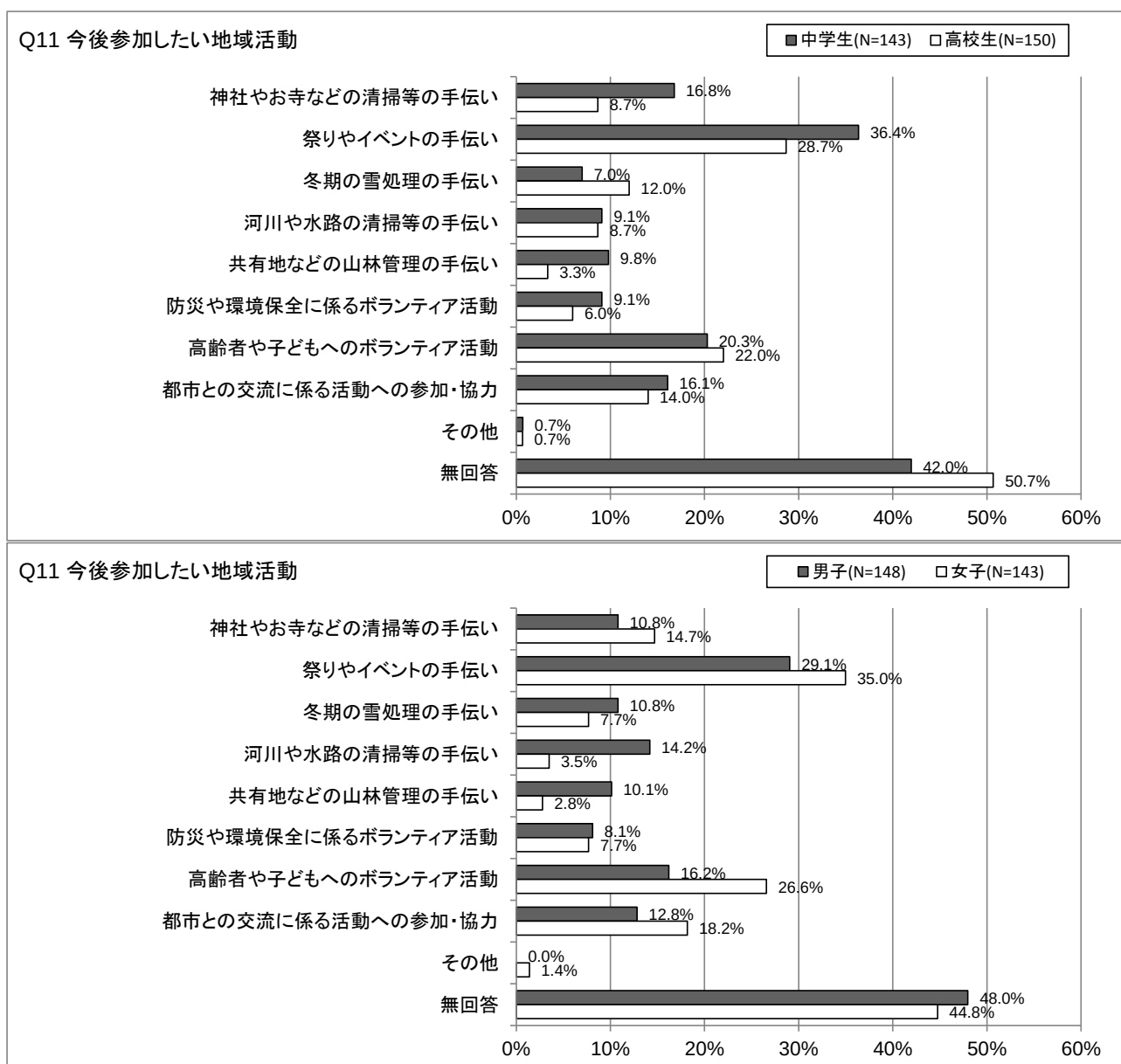


Q10 地域活動への参加状況(女子 N=143)



Q11 Q10の地域活動の中で、今後参加してみたいものがあれば、その番号を3つまで記入してください。

- 今後参加してみたい地域活動に関しては、無回答が多いものの、現在も約半数の中高生が参加していると回答した「祭りやイベントの手伝い」については、今後も参加したいとする割合が高くなっている。
- また、中学生・高校生ともに2割強が「高齢者や子どもへのボランティア活動」に関心を示しており、性別でみると、女子の方がその関心は高い

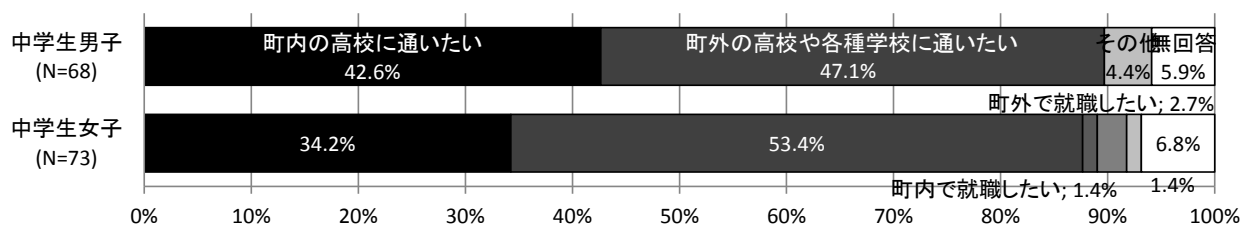


Q13 あなたは卒業後の進路について、どのように考えていますか。(○は1つ)

【中学生】

- 中学生は、男子・女子とも「町外の高校や各種学校に通いたい」が最も高い割合となっており、特に男子よりも女子の方が町外への進学を希望する割合が高くなっている。

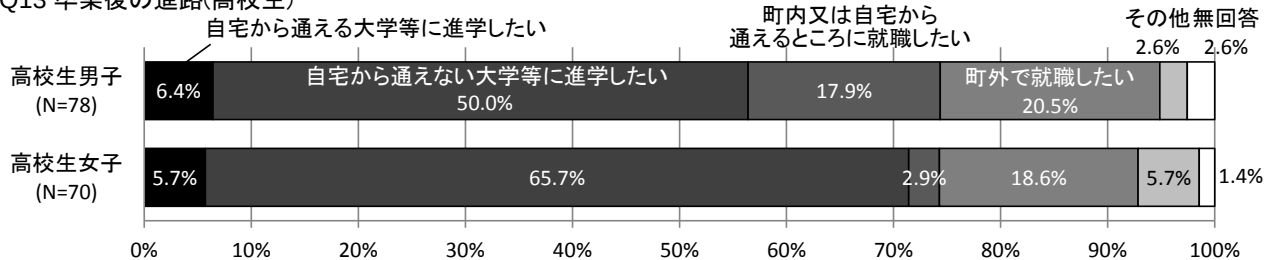
Q13 卒業後の進路(中学生)



【高校生】

- 高校生は、男子・女子とも半数が「自宅から通えない大学等に進学したい」としており、「町外で就職したい」も2割前後と、約7割が町外への進学・就職を希望していることが分かる。

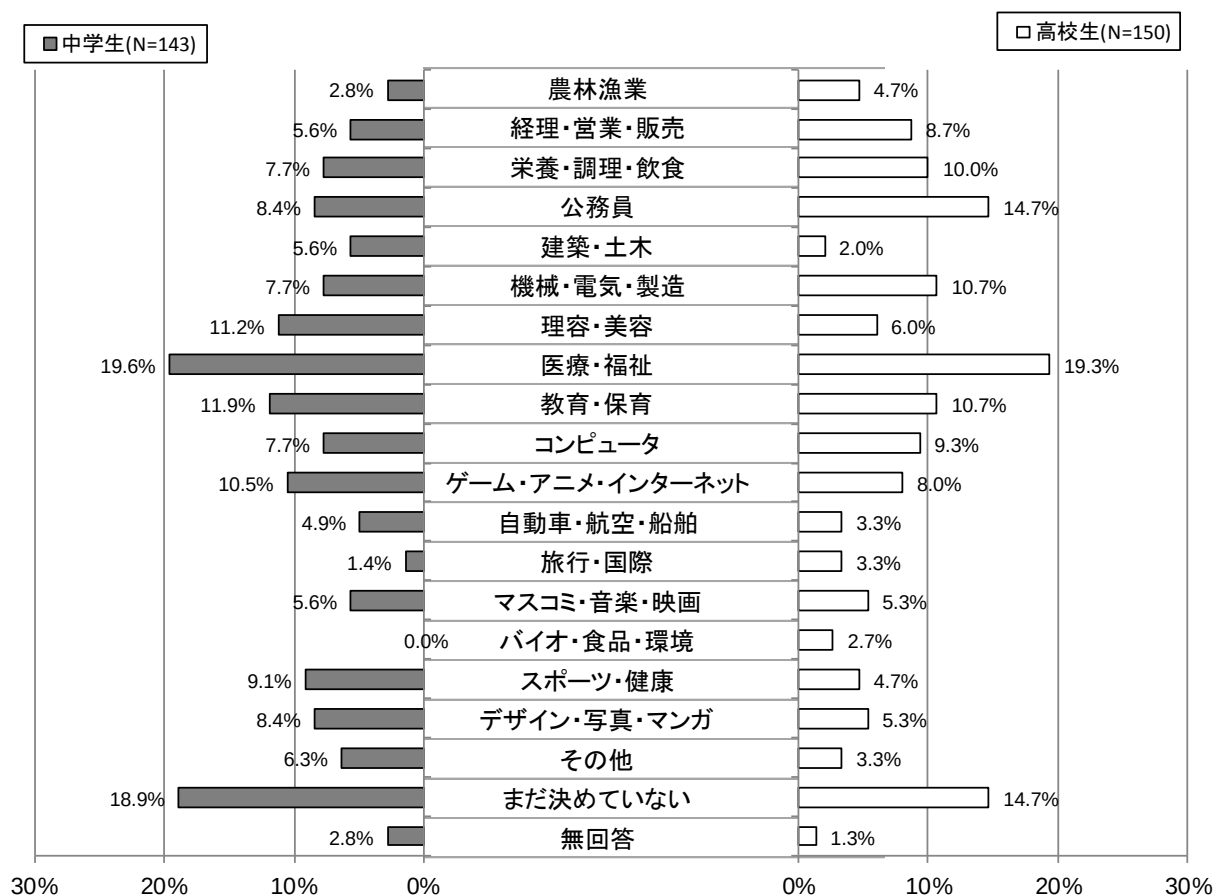
Q13 卒業後の進路(高校生)



Q14 あなたは将来、どのような職業につきたいですか。(〇は3つまで)

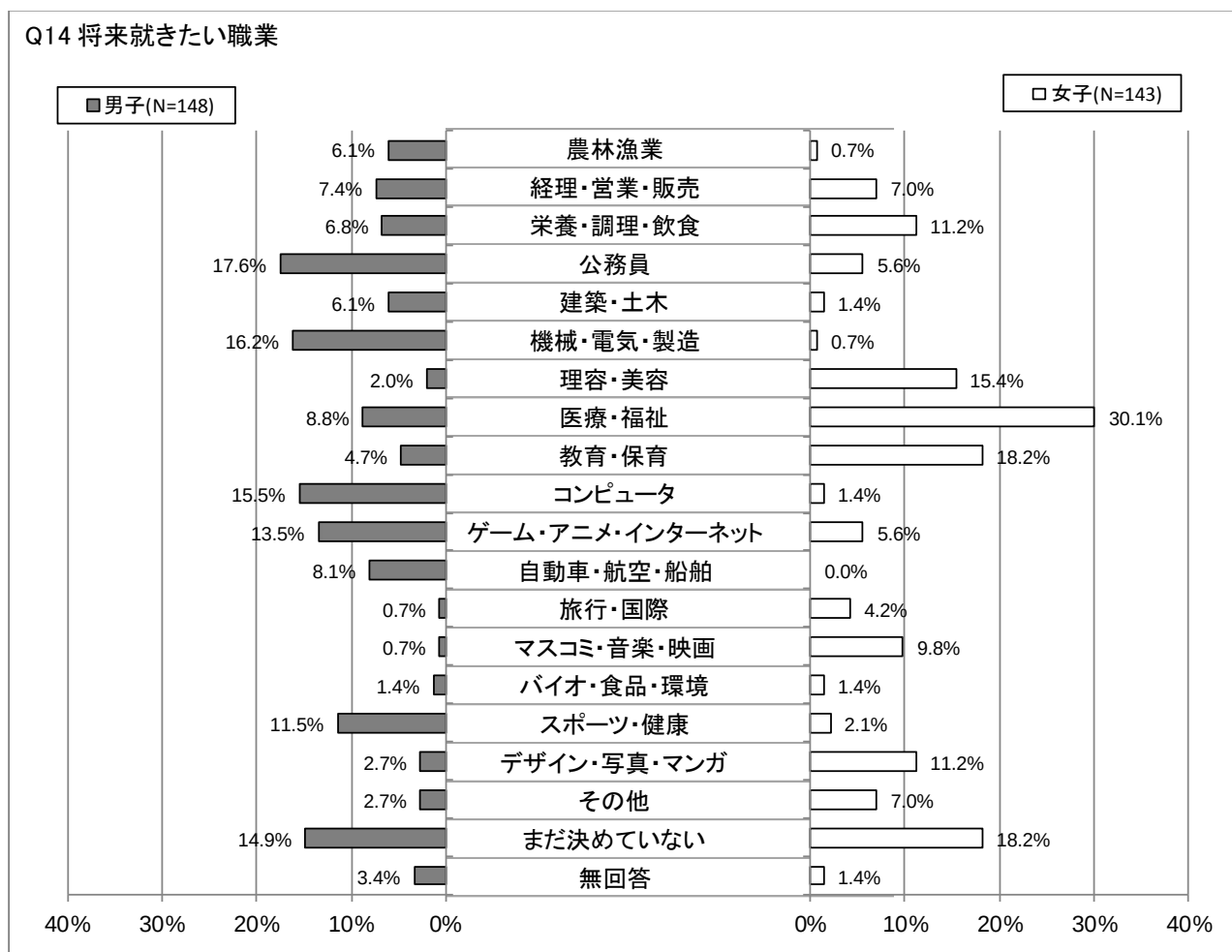
- 将来就きたい職業についての回答をみると、中学生は2割近くが「まだ決めていない」としており、また全体的に中学生よりも高校生の方が回答率が高く、高校生の方が就職についてより具体的に考えていることがうかがえる。
- 中学生・高校生ともに「医療・福祉」が一番人気があり、ともに2割近くが就きたい職業に挙げている。
- これに次いで、中学生では「教育・保育」、「理容・美容」、「ゲーム・アニメ・インターネット」などが、高校生では「公務員」、「機械・電気・製造」、「教育・保育」、などが比較的人気となっている。

Q14 将来就きたい職業



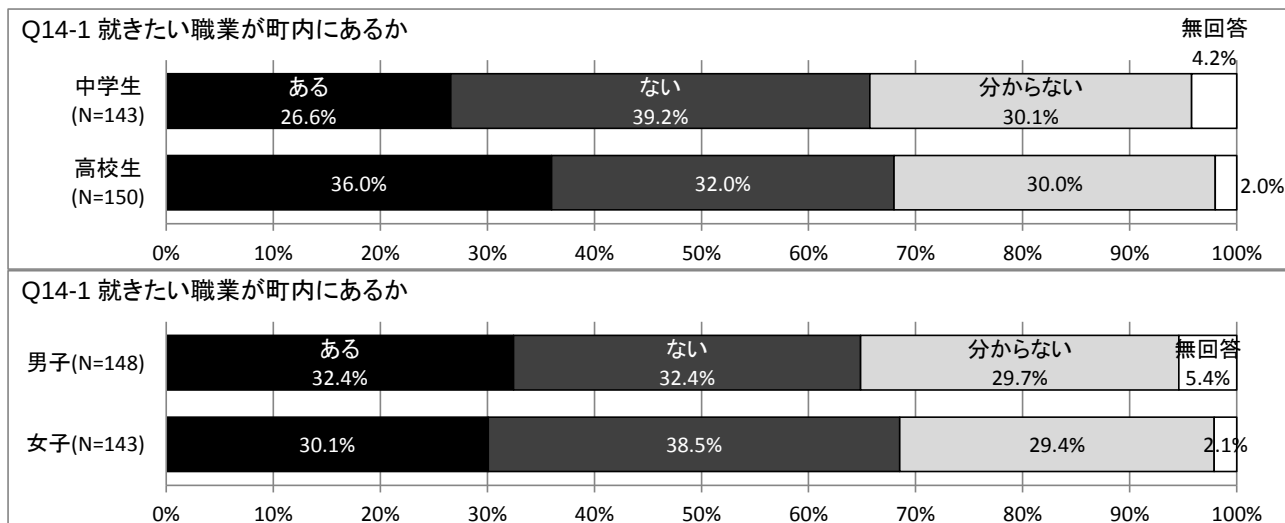
Q14 あなたは将来、どのような職業につきたいですか。(〇は3つまで)

- 将来就きたい職業について、男子と女子とでは就職先の志向が異なることがみてとれる。
- 男子は第1位の「公務員」(17.6%)、第2位の「機械・電気・製造」(16.2%)、第3位の「コンピュータ」(15.5%)の上位3項目にあまり開きがない。
- 一方、女子を見ると、第1位が「医療・福祉」で30.1%と突出しており、次いで第2位が「教育・保育」(18.2%)、「理容・美容」(15.4%)となっている。

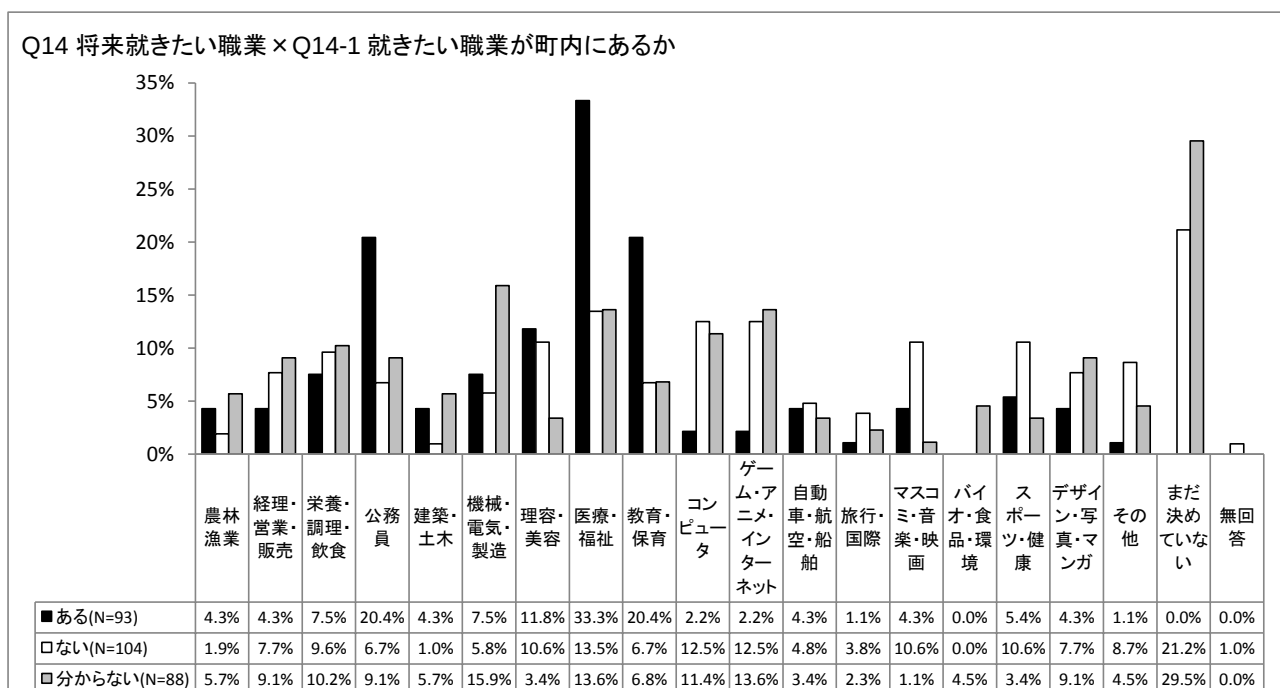


Q14-1 あなたがしたい職業は、小国町にありますか。(〇は1つ)

- 就きたい職業を具体的に回答した中高生に対し、それらが小国町にあるかどうかを聞いたところ、「分からない」という回答が多かったものの、高校生では36%が「ある」としている。

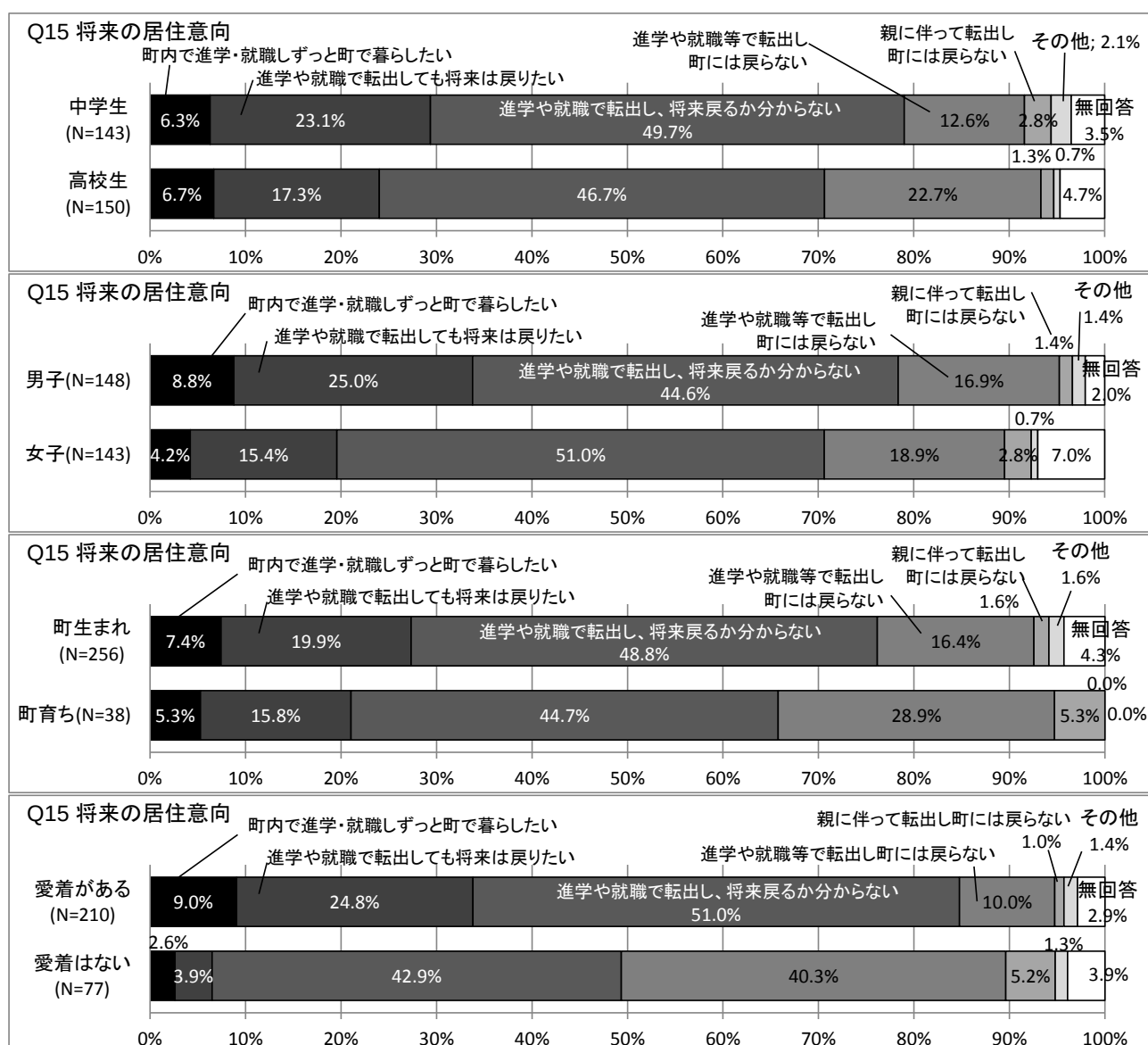


- 就きたい職業とのクロスでどのような職業への就職希望が小国町で叶いそうだと考えているかを詳しく見ると、小国町に就きたい職業が「ある」と回答した中では、「医療・福祉」や「公務員」、「教育・保育」への就職を希望する割合が比較的高い。
- これに対して、小国町には就きたい職業が「ない」という中では、「医療・福祉」のほか、「コンピュータ」や「ゲーム・アニメ・インターネット」への就職を希望する割合が比較的高い。



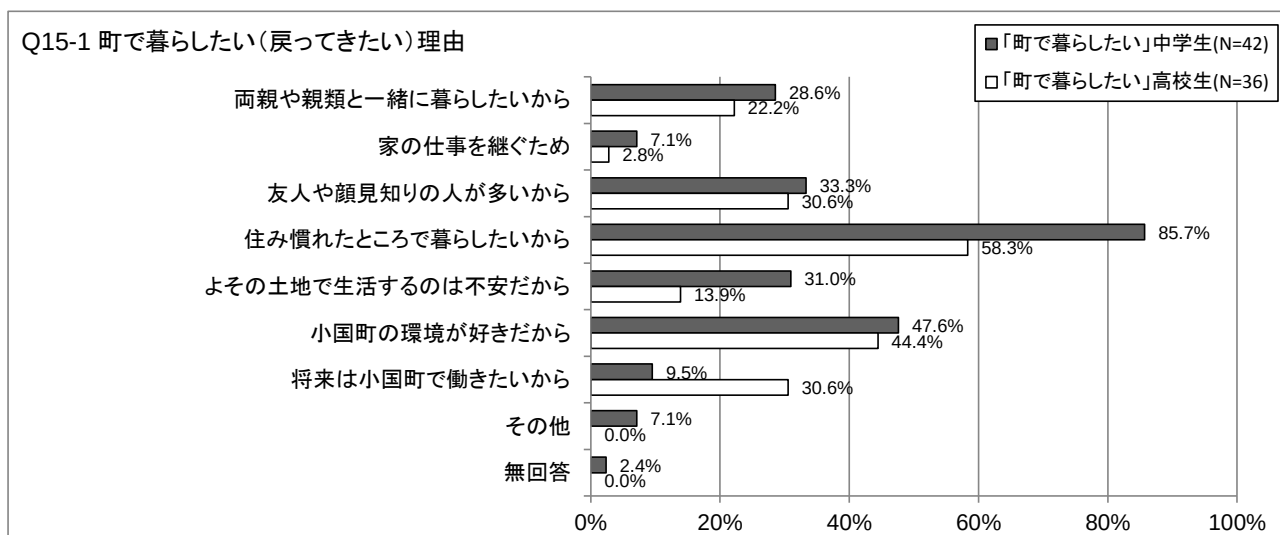
Q15 あなたは、将来も小国町で暮らしていきたいですか。(○は1つ)

- 将来の居住意向についてみると、中学生・高校生とも半数近くが「進学や就職等で町外に出るかもしれないが、小国町に戻ってくるかどうかはまだわからない」としているが、中学生の約3割、高校生の2割強は将来の小国町での居住意向を示している。すなわち、「町内で進学・就職し、将来もずっと町で暮らしていきたい」は、中高生とも6～7%程度みられ、また「進学や就職等で町外に出るかもしれないが、いずれは町に戻って暮らしたい」も2割前後みられる。
- 男女で比較すると、町外への転出意向は女子の方が高く、7割が「将来は戻るかわからない」又は「戻らない」としているのに対し、男子は3割強が小国町での居住意向を示している。
- 町生まれか町育ちかで比較すると、町生まれの中高生の方が町で暮らしていきたい、あるいはいずれは町に戻って暮らしたいという割合が3割近くと高い一方、町育ちの中高生では3割近くが「町には戻らない」としている。
- 将来の居住意向と町への愛着の有無の相関は高く、愛着があるという中高生の3割強は将来町で暮らしたいと思っているが、愛着はないという中高生は8割以上が将来町に戻るか分からない、あるいは戻らないと回答している。



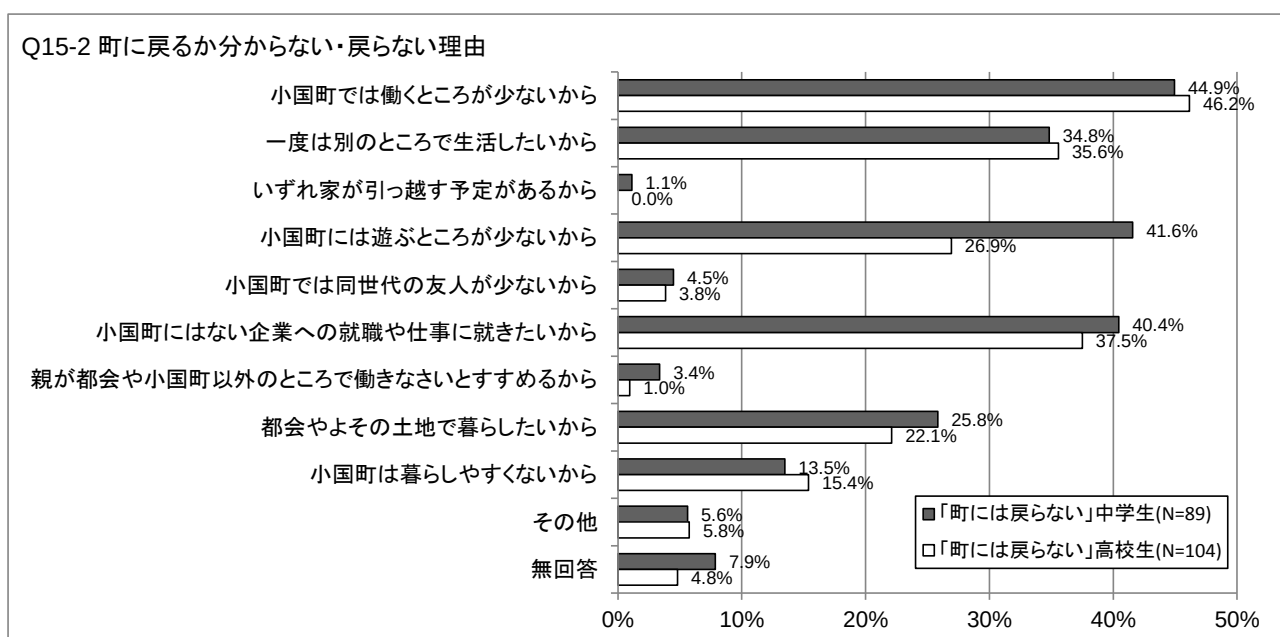
Q15-1 Q15で①または②と答えた方にお聞きます。将来も小国町で暮らしていきたい、または戻ってきたいと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 町で暮らしたい(戻ってきたい)と思う理由を聞いたところ、「住み慣れたところで暮らしたいから」が最も多く、「小国町の環境が好きだから」も比較的高い割合となっている。



Q15-2 Q15で③または④と答えた方にお聞きます。小国町に戻るか分からない、または戻らないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

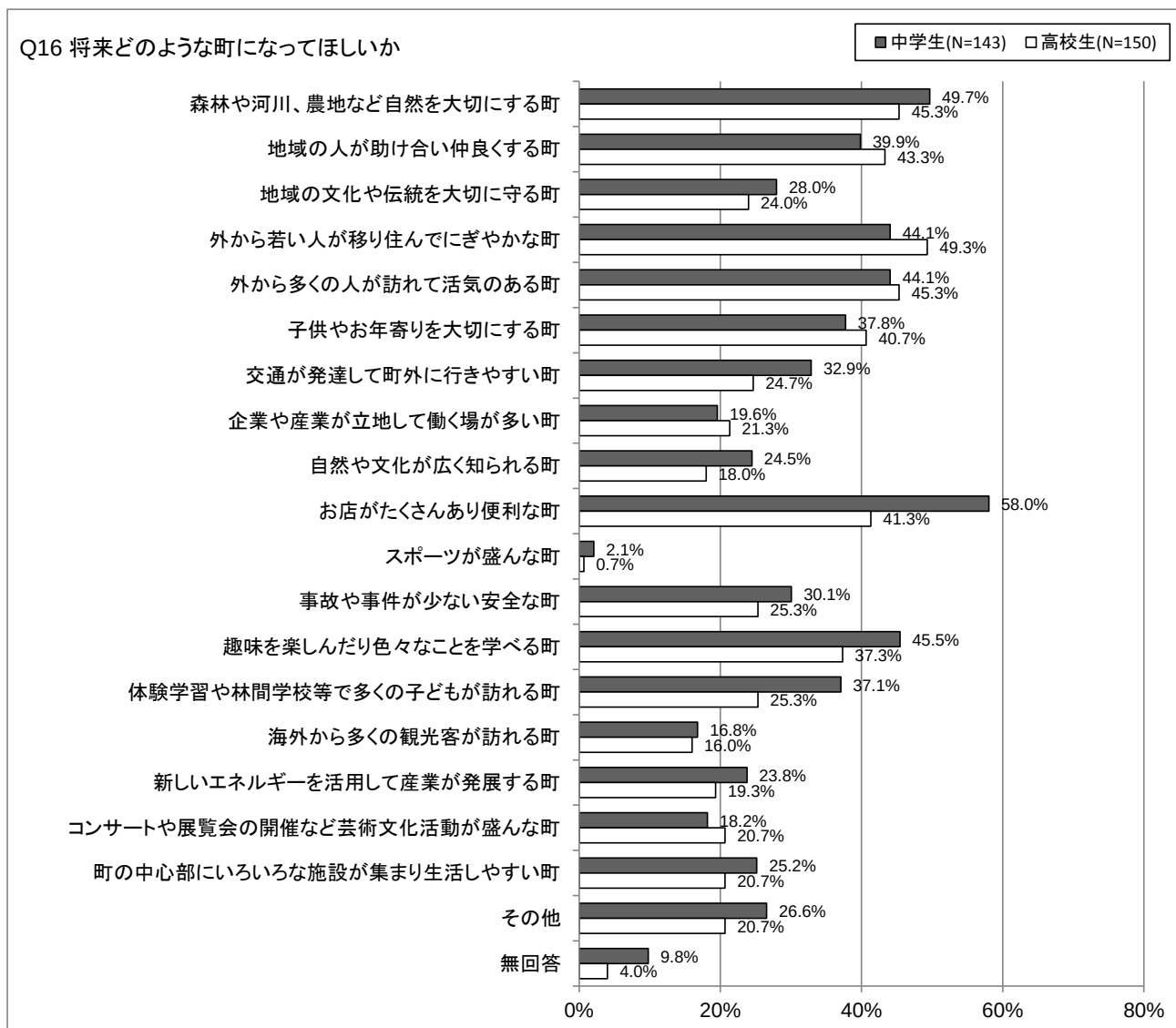
- 進学・就職等で転出し、町に戻るか分からない、あるいは戻らないと回答した中高生に対して、その理由を聞いたところ、「小国町では働くところが少ないから」が4割を超え最も多くから挙げられており、次いで中学生では「遊ぶところが少ないから」、高校生では「小国町にない企業への就職や仕事に就きたいから」が多く挙げられている。
- 「小国町は暮らしやすくないから」という理由を挙げた中高生は1割強とあまり多くないことから、生活環境への不満から転出を考えているというよりは、働く場がないことの方が定住を考える際のネックとなっていることがうかがえる。



(4) これからのまちづくりについて

Q16 将来、小国町はどのような町になってほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 将来小国町がどのような町になってほしいかをたずねたところ、中学生では「お店がたくさんあり便利な町」が最も多く、6割近くから挙げられている。また、「趣味を楽しんだり色々なことを学べる町」も45.5%と3番目に高く、買い物の利便性や娯楽、生涯学習などの機会の充実を望んでいることがうかがえる。
- 一方、高校生の回答を見ると、最も高い割合となったのは「外から若い人が移り住んでにぎやかな町」(49.3%)であり、第3位には「外から多くの人を訪れて活気のある町」(45.3%)が挙げられていることから、移住・交流の促進により町に活気を取り戻すことを望んでいることがうかがえる。
- なお、中学生・高校生とも、「森林や河川、農地など自然を大切にする町」が2番目に高い割合となっており、町の良いところとして高く評価している豊かな自然環境について、今後とも大切にしていきたいことが望まれている。



Q17 Q16で選択したような小国町にするためのアイデアを教えてください。

- 112名（中学生 55名、高校生 55名、不明 2名）から様々な具体的アイデアが寄せられた。
- 最も多くの中高生が指摘したのが、商業施設や娯楽施設、病院、スポーツ施設など現在不足している施設の整備であり、特に商業施設については大型店の誘致を望む声も多く聞かれた。また、廃校舎を活用してスポーツ施設を整備するといった具体的なアイデアを示した回答もあった。
- これに次いで、外部にもっと小国町の情報や魅力を発信することを挙げた回答も 19 件と比較的多く、町の知名度を上げることが重要という意見もみられた。
- また、若い世代をターゲットとした取組を求める声も多く聞かれ、若者が集まる場や機会の創出、若い世代に働きかける情報発信等が指摘されている。

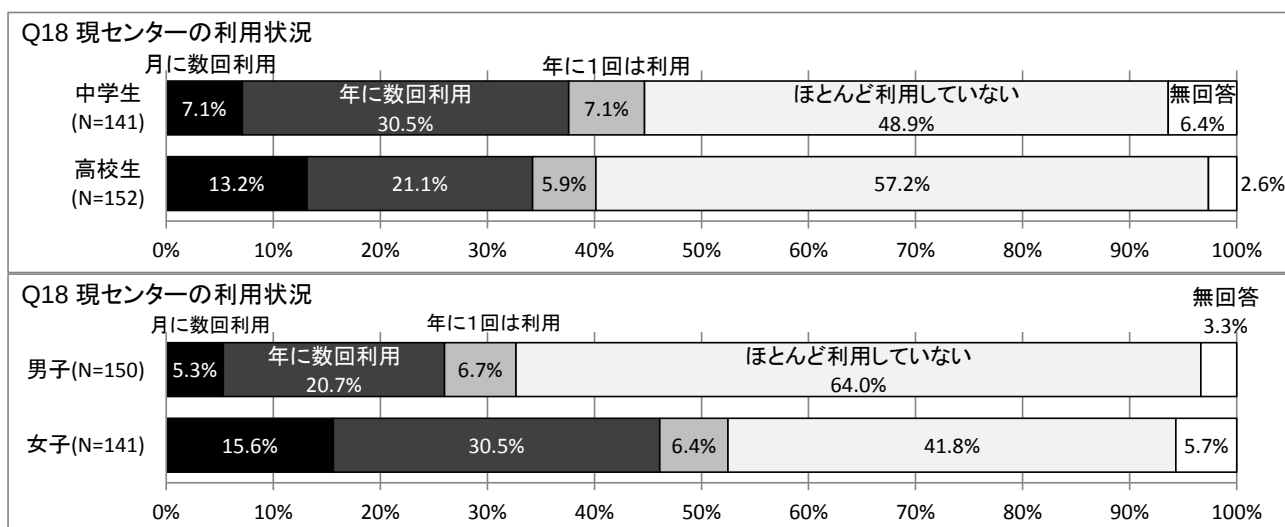
回答内容（分類）	件数
商業施設・娯楽施設・病院・スポーツ施設の整備	27
都市など外部への PR、小国町の魅力等についての情報発信	19
若者が集まる場や機会の創出、地域内外の若い世代への PR	17
多くの人が集まり賑わうイベント等の開催	17
まちをよくするための住民意識の向上と地域づくりへの参画拡大	15
人口増加（移住の促進や子育て支援等）	11
環境保全活動の推進、自然環境を活用した魅力づくり	10
小国町ならではの特産品・観光の目玉となる魅力の開発	9
その他	17

※複数内容に亘る意見があるため、件数の合計は回答者数より大きくなる。

(5) まちづくりの拠点施設について

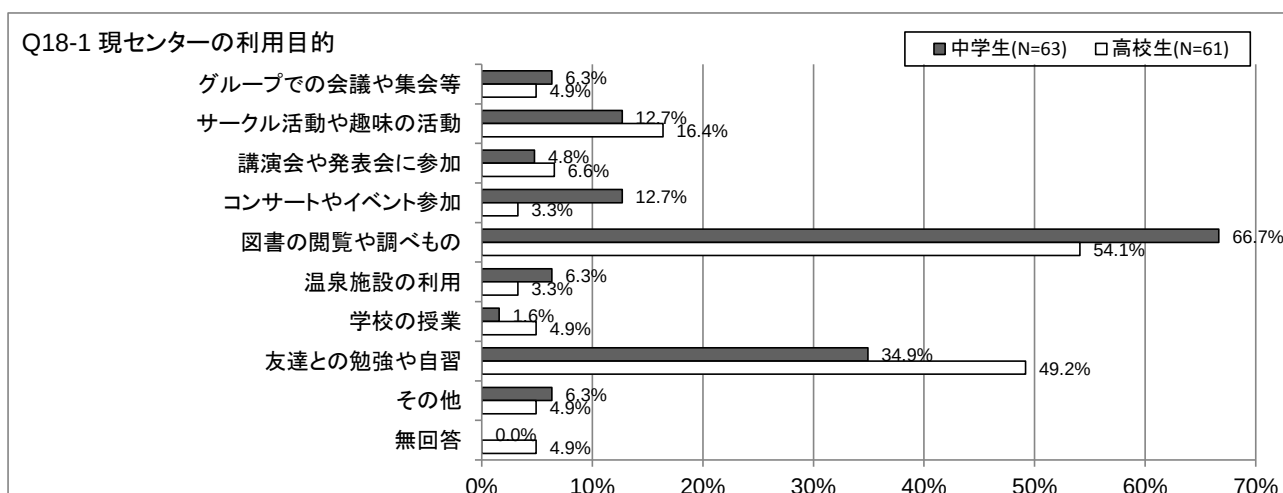
Q18 あなたは、おぐに開発総合センターをどのくらい利用していますか。(〇は1つ)

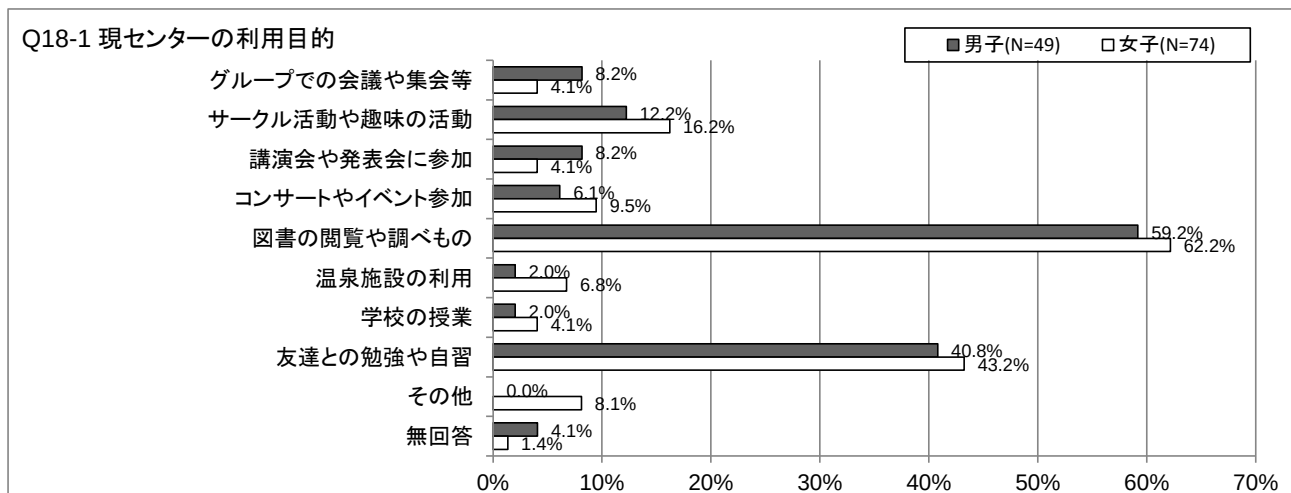
- 中学生の 44.7%、高校生の 40.2%が年に 1 回以上は現センターを利用しており、一般住民よりも利用頻度は高い (P26 参照)。
- 高校生の 13.2%は「月に数回程度」利用している一方、「ほとんど利用していない」も 6 割近くとなっており、利用している人としていない人に分かれていることがうかがえる。一方中学生では「月に数回程度」の割合は高校生よりも低いものの、約 3 割が「年に数回利用」している。
- なお、女子の方が男子よりも利用頻度が高い。



Q18-1 Q18で①～⑥を選択した方に伺います。どのような目的で利用していますか。(〇は3つまで)

- 中学生・高校生とも、「図書の閲覧や調べもの」での利用が圧倒的に多く、特に中学生では 7 割近くとなっている。それ以外では、高校生では 5 割近くが「友達との勉強や自習」に利用しており、中学生 (約 35%) より多い。
- 性別でみると、上位項目以外で差がみられる利用目的として、女子は「サークル活動や趣味の活動」で利用する割合が男子よりも高い。





Q19 あなたは、これからのまちづくりの中心になる施設として、おぐに開発総合センターに代わる施設を建てるとしたら、どのような機能があれば良いと思いますか。(〇はいくつでも)

- 次期センターに求める機能として、中学生・高校生からは「仲間が集まって様々な趣味が楽しめる場」や「友達と話せる憩いのスペース」、「図書館（室）」を求める声が多く聞かれた。
- 男女別でみると、「仲間が集まって様々な趣味が楽しめる場」は男子が、「友達と話せる憩いのスペース」や「図書館（室）」は女子がより多く望んでいる。また、「コンサートや発表会等の集会ホール」は男女の差が大きい。

